

ITER (熱核融合実験炉) 交渉に参加してきました

若狭ネット 久保

8月23日、ITERの日本誘致反対署名運動を進める全国各地の市民グループ（北海道、青森、関東、関西から19名）は、衆議院第2議員会館で文部科学省、内閣府（総合科学技術会議、原子力安全委員会）との交渉を行い、第2次分署名を提出しました。主なことを報告します。

原子力安全委員会では・・・

まず、私たちは、ITERは、今の原発とくらべて安全といえるのですかと、問いました。返答は、「核分裂をする原発とくらべて、事故の規模は大きくなる。」「ITERの安全を確保することは可能である。」でした。

「それでは、お聞きしますが、有名な物理学者である長谷川晃さんの『環境性、安全性、経済性を同時に満たす核融合炉の可能性は将来ともきわめてゼロに近い』との見解については、どのように判断しているのかと追及します」と、何とも応えられずじまいでした。

重大事故を起こした高速増殖炉「もんじゅ」を例に見ても、初めは4000億円の予算でしたが、建設後は、なんと兆円近くの税金を使い、事故を起こし、止まっているのです。

「ITERも甘い見通しで、突き進めば、同じことになる」と厳しく追及しました。もんじゅについては、いまだになんとしても動かさうという危険な動きが現れてきています。

総合科学技術会議では・・・

「ITERを日本に誘致するかどうかの判断は、いつ、どこでおこなうのか？」との質問には、「大臣を中心に有識者議員で検討し、判断する。決定は閣議で9月以降になるだろう。」「その財源は、研究開発なので、一般財源である。」と答えました。

「重要な問題だから国民の意見を聞くべき



総合科学技術会議の役人

ではないか？」との質問には、「ITER誘致に関する署名運動など様々な声があることを承知している。自治体の代表の意見は聞いている。誘致検討会では、慎重、推進の両科学者3名ずつに参加してもらい議論した。安全性、費用、放射性廃棄物の処分、国民の理解が得られるかどうかなど、慎重な議論がおこなわれている。」との返答。

北海道から来られた方は、「知事や町長だけの意見を聞くだけでなく、地元住民の意見をしっかり聞くように」との要望を出しました。

ITERの問題点である「建設費および放射性廃棄物の処分費など、莫大な金がかかること」、「運転すると、放射線を長期間出し続ける（半減期が2万年）放射性物質が大量に出ること」、「核融合のエネルギーを電気エネルギーとして転換できる見通しはなく、核融合炉は原発以上に危険であること」などの大いなる疑問については、交渉では明らかにできませんでしたが、ますますやっかいな方向に動き出していることは明らかです。

世界の脱原発、自然エネルギーの利用などに、金を使おうとしている方向とは、全く逆向きの道を日本は進もうとしています。なんとしても待ったをかけていきたいと思います。